

オリンパスのマテリアリティ

オリンパスは、誠実で透明性のある企業であり続けるために、規制当局やステークホルダーと協力して、強固で持続的な組織の構築に努め、ヘルスケア業界およびESGを主導する企業になるべく、「私たちの存在意義」の実現に貢献していくことを目指していきます。

サステナビリティ・ガバナンス体制

サステナビリティに対する考え方・推進体制

経営とサステナビリティの結びつきを強化：オリンパスは2021年よりESG担当役員を設置し、中長期事業計画の中でもESG関連のKPIを設定するなど、サステナビリティ経営を推進してきました。また、2021年3月期より、執行役の長期インセンティブ報酬である業績連動型株式報酬の一部について外部ESG評価機関の評価結果と連動することとしました。2025年3月期からは従来のDJSIという外部指標だけに基づく役員報酬の成果評価の構造を見直し、当社が定めたESG戦略のKPI及びターゲットに基づく成果評価も併せて総合的な評価ができる評価システムを採用しています。

ESG委員会を設置し、サステナビリティ戦略推進体制を強化：2024年3月期より新しいグループレベルでのガバナンス体制を新設しました。この新しいガバナンス体制のもと、各事業・各機能部門の責任者を中心に構成され、ESG戦略の遂行およびモニタリングを推進する「ESG委員会」を設置し、その下に機能横断的に取り組む必要のあるテーマごとにテーマ別ワーキンググループを置いて戦略を遂行しています。またESG委員会を通じてグループ経営執行会議および取締役会に対して戦略の実施状況や活動成果、課題等が定期的に報告されています。2025年3月期では1年間で2回の定期報告が実施されました。グループ経営執行会議ならびに取締役会からの指示・助言を受けることで、適切なガバナンス体制のもと、ESG戦略を適切に実行しています。

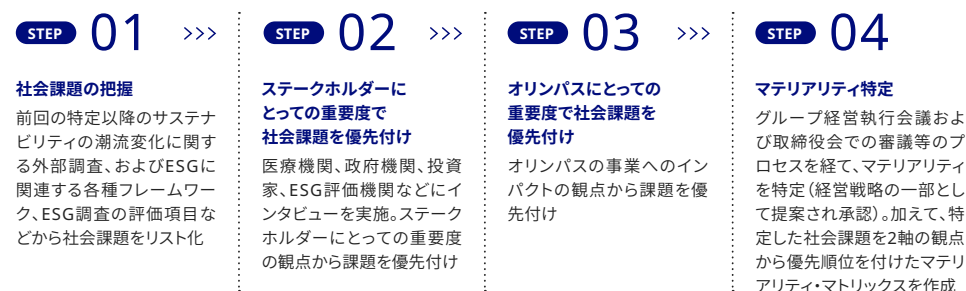
オリンパスのマテリアリティ

ESG戦略

経営戦略の策定と連動して、2023年3月期にESG戦略の見直しを行いました。マテリアリティの見直しにおいては、新たにステークホルダーの皆さまのご意見をお聞きし、また社会の期待値・要求事項やメドテック業界における動向、サステナビリティの観点でのリスクと機会の分析などを踏まえ、「6つの重要領域（Focus Area）」と、その下に「25項目の重要課題（Materiality Topics）」を特定*しました。この「25項目の重要課題」を特定するプロセスの中で、「ステークホルダーにとっての重要性」と「オリンパスの事業へのインパクト（オリンパスにとっての重要度）」の2つの軸を用いてマッピングを行い、「トッププライオリティ」「ハイプライオリティ」「その他」の3段階に優先順位付けをしています。2025年4月には、すべての従業員

が等しく機会を享受できる「多様性（Diversity, Equity&Inclusion）」の取り組みを深化させ新たに「インクルージョン（Inclusion）」として再定義をすることにあわせ、関連する一部の重要課題の見直しを行いました。これにより「25項目の重要課題」は「24項目の重要課題」に再編されています。

* 2020年3月期に4つのマテリアリティを特定して以降、2022年3月期に「社会と協調した脱炭素・循環型社会実現への貢献」を加え、5つのマテリアリティとして見直しを行いました。2023年3月期の見直しにおいては、従来の「6つのESG領域」と「5つの重要課題（マテリアリティ）」を、「6つの重要領域（Focus Area）」に再編しました。



マテリアリティ・マトリックス

① トッププライオリティ（8項目） ② ハイプライオリティ（9項目）

ステークホルダーの重要度	High	① 事業活動倫理とコンプライアンスの徹底遵守 ② サプライチェーン管理上における人権尊重へのコミットメント ③ Scope1、2での脱炭素への取り組み ④ Scope3での脱炭素への取り組み ⑤ 水資源と廃棄物の適切な管理 ⑥ 気候変動リスクへの対応 ⑦ コーポレートガバナンスと情報開示の透明性確保	⑧ 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献 ⑨ より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み ⑩ 製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保 ⑪ サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保 ⑫ 労働安全衛生の確保と人権尊重への取り組み ⑬ 従業員の能力開発とエンゲージメントの向上 ⑭ インクルージョンの推進 ⑮ 循環型社会実現へ貢献する製品ライフサイクル管理	
	Mid	• 倫理性・誠実性に基づいたマーケティング活動 • 環境関連の情報開示の透明性確保 • 多様なステークホルダーとの対話	• リスク管理・危機管理の強化とリスク認識を意識した企業文化の醸成	⑯ 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み ⑰ プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全
	Low	• 企業市民活動および慈善活動 • 税の透明性		• 製造技術改善に向けたイノベーションへの取り組み
			Low	Mid
当社事業への影響度				

6つの重要領域 (Focus Area)	重要課題 (マテリアリティピックス)	KPI	2025年3月期実績
医療機会の 幅広い提供および アウトカムの向上 	トッププライオリティ ● 医療アクセスおよび医療公平性改善への貢献	対象の新興国・地域における大腸がん関連のトレーニング開催数： 年平均成長率+20% 医療従事者を対象とした大腸がん関連のオンライン／ハイブリッド型トレーニング開催数： 年平均成長率+20%	57件実施 (2024年3月期を基準年とした年平均成長率+280%) 87件実施 (2024年3月期を基準年とした年平均成長率+118%)
	ハイプライオリティ ● より良い医療効果を実現するイノベーションへの取り組み ● 早期発見・早期治療の重要性に対する認知度向上への取り組み		
	その他 ● 企業市民活動および慈善活動		
コンプライアンス および製品の 品質安全性への注力 	トッププライオリティ ● 製品、サービス、ソリューションの品質と安全性の確保	適時適切なESG情報開示 (SASB基準*1に沿った開示)	> 適切に開示を実施。 詳細は下記をご確認ください。 製品の品質安全性に関するSASB基準に沿った情報開示
	ハイプライオリティ ● 事業活動倫理とコンプライアンスの徹底遵守 ● プライバシー、情報セキュリティ、サイバーセキュリティの保全		
	その他 ● リスク管理・危機管理の強化とリスク認識を意識した企業文化の醸成 ● 倫理性・誠実性に基づいたマーケティング活動 ● 製造技術改善に向けたイノベーションへの取り組み ● 税の透明性		
責任ある サプライチェーンの推進 	トッププライオリティ ● サプライチェーンのリスク軽減と耐性の確保	年次評価／モニタリング サプライチェーンにおける リスク評価・モニタリングの実施	> ● デジタルプラットフォームを活用して、直接取引サプライヤーを対象にグローバルなサプライチェーン可視化評価を拡大 ● 2025年3月期は重要なリスクを特定し、取引先を選定した上でリスク軽減策を実施 ● このプロアクティブな戦略により、強靱なサプライチェーンフレームワークを通じて、レジリエンスの強化、透明性の向上、および長期的な事業継続性と持続可能な成長を確保
	ハイプライオリティ ● サプライチェーン管理上における人権尊重へのコミットメント		
健やかな組織文化 	トッププライオリティ ● インクルージョンの推進	日本*2における男性社員の育児休業等 取得率 (2026年3月期)： 100% 「ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン」の重要課題 (Materiality Topic) を「インクルージョン」へ発展させるにあたり、適切な指標および目標の設定を行うべく検討を進めています。指標・目標は地域によって異なることがあります。	> 98.2%
	ハイプライオリティ ● 従業員の能力開発とエンゲージメントの向上 ● 労働安全衛生の確保と人権尊重への取り組み		
社会と協調した 脱炭素・循環型 社会実現への貢献 	トッププライオリティ ● Scope1、2での脱炭素への取り組み ● Scope3での脱炭素への取り組み ● 循環型社会実現へ貢献する製品ライフサイクル管理	ネットゼロ 2040年3月期までにScope1、2、3の 温室効果ガス排出量を実質ゼロに カーボンニュートラル 2031年3月期までに自社事業所からの CO ₂ 排出量 (Scope1、2) を実質ゼロに	> ● 主要サプライヤーの温室効果ガス排出量の把握や削減目標設定の支援をするため説明会を実施し、希望したサプライヤーには個別面談を実施 ● Scope3排出量の約3割に相当するサプライヤーがSBT (The Science Based Target) 認定を取得 ● 温室効果ガス排出量： ▲62% (対2020年3月期比)
	ハイプライオリティ ● 水資源と廃棄物の適切な管理 ● 気候変動リスクへの対応		
	その他 ● 環境関連の情報開示の透明性確保		
コーポレートガバナンス 	トッププライオリティ ● コーポレートガバナンスと情報開示の透明性確保	エンタープライズリスクマネジメント 一貫性・継続性を確保したグローバルでの実施	> 「リスクマネジメント及び危機対応方針」および関連規程に基づきリスクマネジメントを実施。その活動結果をグループ経営執行会議および取締役会へ報告
	その他 ● 多様なステークホルダーとの対話		

*1 SASB基準：SASB (Sustainability Accounting Standards Board:米国サステナビリティ会計基準審議会) が公開した非財務情報公開の標準化に向けた基準。業種別の開示スタンダードが策定されている

*2 オリンパス株式会社を対象